非接触ケーブル探索機

PTR600 簡単取扱い説明書

【1】送信機のセット

①アダプターの取付け



●送信機にプラグアダプターコードを接続
●無極性（方向性無し）

②アースに接続



●クリップの一方を必ずアース側から接続
●活線先行接続はクリップに受電して危険

③目的線に接続



●ワニロクリップをローカルの活線側に接続(耐圧600VAC)
●無電圧線にも対応

④コンセントに接続



●付属のブレード使ってコンセントの活線側に接続
●プラグ接続より高感度

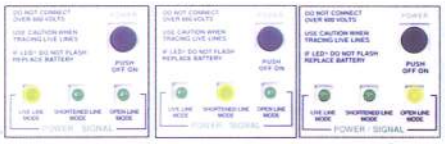
通常は目的線のローカル側に送信機を設置

【2】電源の（入・切）操作

①送信機の電源を入れる



●送信機の電源ボタンを1回押す
●3個の LED の同時点滅後、1つが点滅開始



活線 感電注意　ショート 短絡回路　オープン 開放回路

注：点滅箇所で回線確認

注：約30分で自動的に電源の切れるオートパワーオフが作動
30分以上の作業は②を選択
30分以内で終了は③

②オートパワーオフの解除



●電源投入後ボタンを再度5～6秒押す
●LED 点滅後オートパワーオフが解除

③送信機の電源を切る



●送信機の電源ボタンを1回押す
●LED の点滅停止で OFF を確認

①受信機の電源を入れる



●強受信モード
●受信機の電源【強】ボタンを 1 回押す



●弱受信モード
●受信機の電源【弱】ボタンを 1 回押す

②オートパワーオフの解除



●両方のボタンを同時に5～6秒押す
●5分の自動OFF 解除

③受信機の電源を切る



●両方のボタンを同時に1回押す
●ピピピ音の後停止

【3】探索方法（目的線を自動検出します）

■ブレーカー探索



ブレーカー探索・検相

■ケーブル探索



目的線・配線路探索

注：受信機は必ず素手で持って探索を行ってください

本機はマイクロプロセッサーによる最も強い信号を自動的に検知するピークホールド機能を装備します。誘導により複数のブレーカー及びケーブルが検出された場合探索スキャンを行うことで最高レベルの信号のみが記憶・選択され “音” と “LED” の発光で確実に識別を行うことができます。マイクロプロセッサの学習機能を作動させるため、探索はゆっくりと行います。

① 強受信モードで送信機の信号を検知し探索域を特定
② 弱受信モードで対照を狭め最終的に残る一つを検出
③ 他の発信源の有無を確認して目的線の特定を行う

【4】リセット方法（感度を最高レベルに戻します）



強受信モードリセット



低受信モードリセット

本機のマイクロプロセッサーは●強受信モード・●弱受信モード共目的線に近づくに従い自動的に受信感度を低くします目的線がわかりにくくなった場合はそれぞれのモードの電源ボタンを押してリセットを行うことで最高感度に復帰させることができ、確認が容易となります。

① 強受信モードで遠距離で受信感度が低くなった場合、電源【強】(リセット)を軽く一回押し受信感度を最大にします

② 弱受信モードで近距離で受信感度が低くなった場合、電源【弱】(リセット)を軽く一回押し受信感度を最大にします

【5】事故点検出（ケーブルのオープン・ショート・漏電箇所の検出ができます）



受信感度（強）



受信感度（弱）

デジタル式送受信方式の採用でケーブルの障害箇所から生じるわずかな信号の変化を的確に捉えることができピンポイントの事故点検出が行えます。

① ショート：それぞれの回線にクリップを接続

② オープン：単線時は単線とアースにクリップ
複線時はそれぞれの回線に接続

③ 漏電箇所：単線と同接続（１ＭΩ迄の漏電に対応）

●受信感度が急激に弱くなる箇所が事故点になります

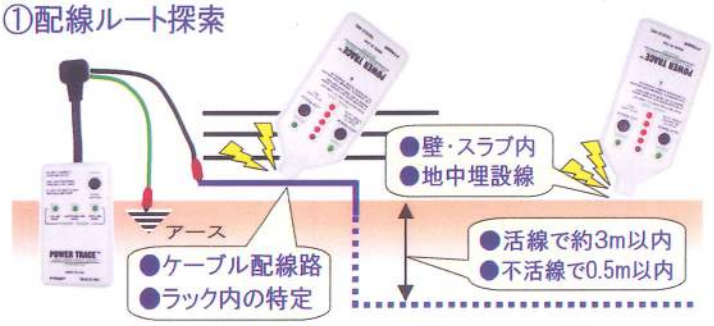
【6】活線・不活線トーン識別（音の違いで電圧の有無を確認できます）



探索するケーブルが活線と不活線で異なるトーンが聞こえます。ブレーカーの入切で目的線の確認が可能

【7】探索例

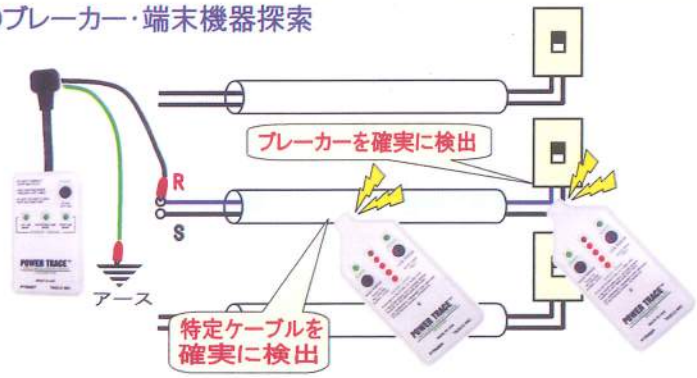
①配線ルート探索



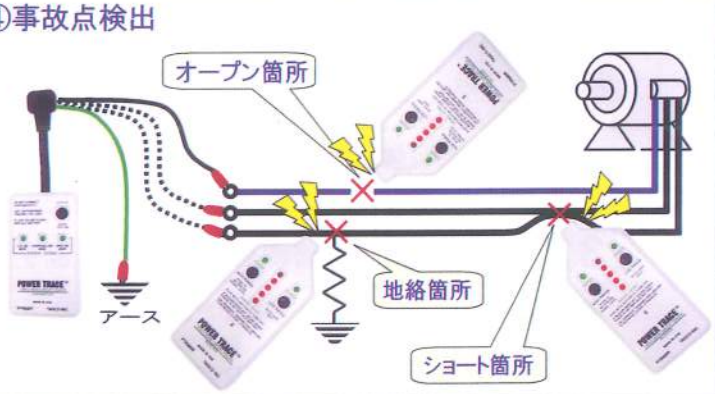
③単線識別・検相機能



②ブレーカー・端末機器探索



④事故点検出



フリーダイヤル 0120-26-5527 総発売元 株式会社グッドマン
グッドマン ウェブ検索 JWord.
〒236-0024 神奈川県横浜市金沢区乙舳町9-18
http://www.goodman-inc.co.jp TEL.045-701-5680 FAX.045-701-4302